

## 九条北小学校 校長室だより

NO.45 令和2年7月15日



7月に入り、雨の日が続いています。熊本県で起こった豪雨災害に関する報道が続いており、私たちの住む大阪でも、他人事でなく、いざというときに、児童の安全を第一に考え行動できるようにと、改めて考える機会となっています。

ところで、今回は、少し時間はたってしまいましたが、七夕に因んだ話題を紹介します。

### ★ 新型コロナに対応しつつ…大阪で「七夕行事」★

大阪では7日、七夕にちなんだ行事が行われました。大阪市北区の**大阪天満宮**では、「**天満天神七夕祭**」が開催されました。天満宮には、境内の北側「星合池」にあるお茶店で、お見合いをした男女は結ばれるという言い伝えがあり、例年、多くの方が短冊に願いごとを書いて笹に吊るす姿が見られるとのこと。今年は新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、笹と短冊の設置は中止され、本殿の中で神事のみが静粛に行われたそうです。一方、大阪市中央区を流れる**大川沿い**では、**新型コロナウイルスの収束を願って「疫病退散祈願祭**」があったそうです。生國魂神社と大阪天満宮の宮司らが、神聖な天満天神の水を川に流す儀式が執り行われたようです。毎年、七夕の日には「天の川」をイメージして電球を大川に流すイベントが開かれていましたが、今年は参加者らの「3密」を防ぐため中止され、「来年こそは”天の川”を楽しんでもらえる世の中になってほしい」と願っているそうです。



### ★ 七夕の日「2年前の豪雨」を教訓に

#### ～「みんなで土砂災害の減災を願う日」(WEB ニュースより)★

2020年七夕は、例年と大きく違う状況でした。新型コロナウイルスによる影響で各地の七夕祭りが軒並み中止になり、笹飾りの設置が見送られました。7月4日には豪雨災害が熊本県で発生し、今も九州各地で土砂災害や河川の氾濫の危険性が高い状態が続いています。そのため「**コロナ、豪雨災害の終息**」を七夕の願い事に掲げる人が多いそうです。実は**7月7日は「みんなで土砂災害の減災を願う日」**とのこと。

### 「安全に夜空を見上げられること」を祈って

日本記念日協会の公式サイトによると、徳島県小松島市の民間の有志で結成された「7月7日『みんなで土砂災害の減災を願う日』記念日推進会」によって制定されたそうです。背景には、2018年7月3日から8日にかけて西日本を中心に記録的な大雨となり、各地で洪水や土砂災害が発生した「西日本豪雨」があります。そのため、**この記念日には「自分たちの地域の溜池や崖などの存在やその危険性を知ること、少しでも土砂災害が減ることを願う日にとの思い」**が込められているとのこと。18年7月7日に想定外の土砂災害が多発したこと、七夕に大地を踏みしめて安全に夜空を見上げられることを祈り、7月7日に制定したそうです。全国から、このようなメッセージが届いているようです。「一昨年の今頃、西日本豪雨が発生し広範囲に甚大な被害をもたらしました。これを契機に制定されたものです。今まさに九州で氾濫が続いてますが被害が広がらない事を願うばかりです」「残念な事に今年も熊本で豪雨災害が発生してしまいました。被災された方々には心よりお見舞い申しあげます頑張ろう！熊本」